

あわせて行こう

「うのすまい・トモス」から車で50分

陸前高田

東日本大震災津波伝承館 (いわてTSUNAMIメモリアル)

DATA→P46



①「祈りの軸」が施設から一直線に海へとつながる

「高田松原津波復興祈念公園」内に設立された伝承施設で、国営追悼・祈念施設(→P47)や「道の駅高田松原」に併設しています。岩手県内の被災状況や、三陸沿岸の地理特性を踏まえた津波が起きる仕組みなどを解説し、発災直後に撮影された防災ヘリコプターの映像からは、震災当時の被災地の状況を伺い知ることができます。パネル展示やガイダンスシアター、常駐する解説員のサポートにより、さらに深い理解を促してくれます。

②約12分の映像が流れるガイダンスシアター



③津波でぶれた消防車を展示

Recommend ここに注目!

この施設ができた当初は、まだ現物展示が珍しく、ほかにも日本の津波の歴史について学べるコーナーでは、地層を分析することにより、被災地域に津波が何度も訪れていることがわかります。エントランスから海へ抜ける風景も美しいので、復興祈念公園と併せて訪れていただきたいです。



東北大学災害科学国際研究所
北村美和子

4 迫りくる津波を見た 「山崎デイサービス」

発災から約30分ほどで到着した第2避難場所。その時点で児童だけではなく、逃げてきた地域の方や近くの保育園児、保護者など約1000人近くが集まりました。改めて整列点呼をしていたその時、はじめて迫りくる津波を目撃。現場は一気にパニック状態に陥り、先生たちの指示も聞こえないほどだったそうです。

真っ黒で大きな壁が轟音を立ててやってきた

④山崎デイサービスから海の方を眺める。最終的に津波は施設の手前まで到達した



後ろを振り返らず
無我夢中に走った...

⑤山崎デイサービスから恋の峠まで続く坂道
⑥避難後に整列、点呼をしている当時の様子(写真提供:いのちをつなぐ未来館)

5 全力疾走して逃げた 「恋の峠」

津波を目撃してからは先生の指示ではなく、そこにいた全員が一目散に坂道をかけあげりました。「恋の峠」は海拔44m。学校から恋の峠まで経由した避難場所は4カ所で、道のりにして約1.6km、実に約40~50分間を避難し続けたことになります。



⑦教訓が記された釜石市防災市民憲章



6 「釜石祈りのパーク」で 祈りを捧げよう

プログラムの最後は、犠牲になられた方々の芳名を刻んだ芳名板や献花台を設けた慰霊・追悼の場所へ。空に大きく開けた広場には、鵜住居地区における津波浸水高約11mを表すモニュメントや防災センター跡地碑などが設置され、震災の教訓を後世へと伝え続けます。

⑧3月11日になると多くの方が訪れ、花を手向け、祈りを捧げる



⑨オンライン語り部をする川崎さん



「語り部活動を通して伝えたいことを教えてください。」
「私たちが実際に避難した経路を体験することで、避難はどうすればいいのか、意外と体力を使うことなど自分ごととして捉えることができます。一人一人が津波が来るかもしれないと判断し、避難したことで命が救われたこと、備えることの大切さ、逃げることの大切さを感じ取っていただければと思います。」

避難路追体験プログラム

今回参加したのは

鵜住居地区では多くの方が亡くなった一方で、小・中学生のほとんどは生還を果たしました。児童たちが実際避難した経路をたどることで、震災当時の出来事を肌で感じられる内容となっています。

所要 1時間30分 料金 1万1000円
※要予約

3 避難場所だった 「ございしょの里」で起きた異変

学校から避難し、最初にたどり着いた場所。普段の避難訓練で使われていた場所でしたが、すぐそばの山肌が崩れ始めたそうです。付近の住民が「今まで崩れたことは一度もない。もっと大きなことが起きるかもしれない」と先生たちに助言。そしてさらに上を目指すことになりました。

⑩震災前に行われた避難訓練の様子(右)と、震災直後の様子(左)(写真提供:いのちをつなぐ未来館)



住民のひと声でさらに高台を目指します

2 学校跡地に建てられた 「釜石鵜住居復興スタジアム」へ

ここには元々、鵜住居小学校と釜石東中学校がありました。海拔はわずか2m、小・中学生合わせて約570人が地震発生後すぐに高台へ避難を開始したそうです。津波は最終的に校舎の3階の高さまで到達したといい、そのままとどまっていたら...と考えると恐ろしくなります。

⑪ラグビーのW杯の試合が行われた復興のシンボルの存在、現在は土地をかき上げ、震災当時の2階ほどの高さ約7mになっている



児童たちが最初にいた思い出の場所...

「震災当時の状況はどのようなものだったのでしょうか?」
「山崎デイサービスに避難したとき、真っ黒で大きな壁のような津波を見ました。家がなぎ倒されて音も聞こえませんでした。生まれてはじめて、死ぬかもしれない!と思った瞬間でした。そこから高台を目指して全力疾走しましたが、疲れを忘

「なぜ語り部としての活動を始められたのですか?」
「鵜住居町出身で、2年生の時、部活動の最中に学校で被災しました。その経験から震災伝承活動に取組みたいと、大学卒業後、Uターンで町に戻り、現在語り部のほかプログラムの企画運営などを行っています。」

案内人
川崎杏樹さん

あの日のこと、そして未来へ伝えよう

震災を学ぶたび

震災伝承施設では、語り部ツアーや防災学習プログラムを行っている施設があります。現地の様子を体感しながら、東日本大震災を経験された方々の話を聞き、学びに生かしましょう。



1 まずは 「いのちをつなぐ未来館」で 地域を知る

避難した196人のうち162人が亡くなった「鵜住居地区防災センター」。震災当時「避難拠点(中長期の避難場所)」ではあったものの、津波の緊急避難場所には指定されていませんでした。防災センターという施設名や、普段この場所で避難訓練が行われていたことで、地域住民の誤解を招いてしまったといいます。

⑫「東日本大震災と釜石」鵜住居地区防災センターの出来事「釜石の子もたち」の3つのテーマで、パネルや映像、実物展示で震災の状況を解説



最も犠牲者が集中した場所で起きたこととは...

岩手・釜石 うのすまい・トモス

DATA→P40(釜石祈りのパーク)
P41(いのちをつなぐ未来館)



あわせて行こう

「南三陸311メモリアル」から車で約50分

石巻

みやぎ東日本大震災津波伝承館

DATA→P65



かつての市街地に建設されている

来訪者を宮城県内の震災伝承施設などへ誘うゲートウェイ(玄関口)を目指し、2021年に開館。正円形の屋根が印象的な建物は一面ガラス張りとなっていて、日和山や追悼の広場が視線の先に広がります。パネル展示やシアター映像のほか、タッチパネル形式で県内各地の語り部のメッセージを聞くことができます。毎週土曜日には直接お話を聞ける語り部講話が実施されているので、ぜひ参加してみましょう。



毎週土曜に開かれる語り部講話



視覚的に分かりやすくまとめられたパネル展示

Recommend ここに注目!

県内6つの震災遺構をVR映像で視聴できるコーナーがあります。流れ込んだがれき、ボロボロに剥がれた壁や天井、波が引いたばかりのあの日の場所に、自分が立っているような感覚に。正直、怖さを感じるほどです。特別企画も充実しており、学術研究や復興の最前線で活躍されている方々からお話を伺えるのも大変貴重です。



震災伝承ライタージェンティーレ恵

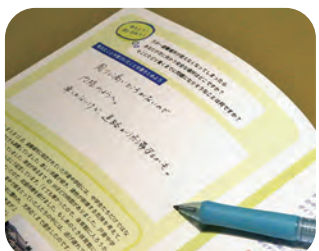


「防災」・「自然と人間」・「命を守る」ことを考える

4 災害について学び合う

「ラーニングプログラム」

施設のメインコンテンツであるラーニングプログラムは、約60分(ショートは30分)の映像を通して証言を聞き、「もし自分がそこにいたら、どう考えどう行動するか」を考える場。さまざまな問いと1分間の対話の時間が設けられているため、ただ受け身ではなく、自分ごととして捉え、より防災の意識を高めることができます。



防災ミラックは持ち帰りOK。防災の知識がまとめられているので振り返りにも利用できる



2013年秋から2021年夏にかけて実施されたプロジェクト。館内の無料エリアにあるので誰でも見学可能

5 今を生きる人々を写した「みんなの広場」

もっと強くたくましく生きる

ラーニングプログラムを終えシアターを出ると、南三陸の人々の笑顔があふれる空間へと続きます。「みんなが南三陸」と題した写真プロジェクトは、写真家・浅田政志氏と住民がアイデアを出し合いながら制作しました。すべての人への感謝と、くじけない心・生きる喜びを伝える姿に、南三陸の人々の力強さを感じられました。

6 町を一望できる「展望デッキ」

命あることの尊さと向き合おう

最後は外階段を上り、展望デッキへ。旧防災対策庁舎や志津川湾、南三陸町震災復興祈念公園を見渡すことができます。学んだことを振り返りながら、あの日のこと、そして失われた命に思いを馳せ、心の中で祈りを捧げましょう。復興が進んだ町の姿に、10年以上の年月が経ったことを改めて感じさせられます。



目の前に「南三陸さん商店街」もあるので、帰りにぜひ立ち寄ってみよう



赤い鉄筋の建物が旧防災対策庁舎。右手には南三陸町震災復興祈念公園も

震災を学ぶたび

宮城・南三陸

みなみさんりくちまうじがにほほだしいんさいでんじまうじかたみなみさんりくちまうじがにほほだしいんさいでんじまうじかた

南三陸町 東日本大震災伝承館 南三陸311メモリアル

DATA→P57

宮城県北東部の町・南三陸に2022年10月に開館した伝承施設。エリア帯は道の駅さんさん南三陸として登録され、商店街や観光案内所、JR志津川駅を含むバスターミナルなどから構成されています。



津波は何度も繰り返されてきた

3面を使ったシアターで上映。ランダムに置かれた椅子は自由な対話を促してくれる(写真提供:南三陸町)

クリスチャン・ボルタンスキー(MEMORIAL) 2022(写真提供:南三陸町)

静かに思いをめぐらせる空間

天井近くに防災対策庁舎を襲った津波の高さが記されている。入口付近のエリアは入場無料

1 三陸地域を襲った「震災と津波の歴史」に触れる

白壁一面に記されたデータは、周辺地域で起きた震災と津波の記録。東日本大震災だけではなく、過去の災害についても触れられており、いかにこの地で津波の被害が繰り返されてきたかを思い知らされます。天井付近のメモリアルはかさ上げ前の土地から15.5mの高さにあり、町の防災対策庁舎を襲った津波の高さと同じです。



立体地図で地形を表し、過去の津波被害について解説(写真提供:南三陸町)

3 現代アート「MEMORIAL」と向き合う

フランスの現代美術家・クリスチャン・ボルタンスキー氏が町の依頼を受けて制作したインスタレーション空間「MEMORIAL」。ユダヤ系の父をもつ同氏は幼少期から戦争の話に耳にし、人の死や命、存在をテーマにした作品を世界各地に残しました。震災直後に実際に被災地を訪れ、インスピレーションを得て作られた作品の世界観を感じてみましょう。



この展示ギャラリーからは有料エリア。ラーニングプログラムが開始されるまでの間、じっくりその声に耳を傾けよう

あの日、南三陸町で何が起きたのか

2 「住民の証言」からあの日のことを知る

800名以上の死者・行方不明者を出した南三陸町では、被災した住民のうち約90名から証言を集め、映像に収録しています。防災対策庁舎で被災した役場職員の方など、紡ぎ出すように語られる町民一人一人の証言からは、震災の状況をまざまざと突きつけられます。震災当時小学5年生だった児童が書き記したメモも必見です。

案内人 おおしよしたか 大石義貴さん

この仕事に携わるようになったきっかけを教えてください

震災当時名古屋で大学生だった私は、ボランティア団体に所属し、被災地に何度も足を運びました。卒業後も同じ団体の職員となり、東北のみならず、熊本や長野にも赴きました。ただ平成30年(2018)に大阪で起きた北部地震に大きなショックを受けたんです。阪神・淡路大震災で被災した地域でも20年以上経つところなるのか...。その被災経験が生かされずに混乱していた現場を目の前にして、震災を伝承していくことの難しさや必要性を痛感したのです。東北でもまた起きるかもしれない、伝え続けなければいけない、その思いを東北に戻ってきました。

あわせて行こう

「ふたばいんふお」から車で約20分

双葉町

東日本大震災・原子力災害伝承館

DATA→P96



2020年9月に開館

地震・津波・原発事故…世界で類を見ない複合災害を経験した福島県。東京電力福島第一原発から約4kmの場所に立つ伝承館は、原発とともに歩んできた震災以前の地域の様子から、震災、原発事故、避難へと至った過程が解説資料や現物展示、映像などで紹介されています。除染、風評被害、健康への影響、長期化する避難。時が止まっていた福島の復興はまだ道半ば。自らの目で見て考えることが大切です。



約200点の資料を展示



見学はシアター上映から始まる

Recommend ここに注目!

プロローグで上映される5分間の映像は、福島県出身の俳優・西田敏行さんのナレーションで始まります。思いが込められたその声に「福島の実状を共有するんだ」と気が引き締まります。語り部講話も絶対聞いてほしいですね。原発は国内・世界各地にあり、自分に関係ない話ではありません。原発についての正しい知識を学ぶ必要があると思います。



防災イラストレーター ico.

9年をかけたようやく全線再開通!



新駅舎の待合室は、旧駅舎をできる限り再現

4 新しく生まれ変わった「JR夜ノ森駅」



待合室の中は、かつての駅舎の写真などが展示されている

地震と原発事故の影響で工事が困難な区域(JR常磐線 富岡駅～浪江駅)にあった夜ノ森駅は、建物の老朽化が進み2019年に解体となりました。しかし2020年3月、震災から9年の時を経て帰還困難区域を通る区間も全線再開通されることとなり、夜ノ森駅は新駅舎となって生まれ変わりました。

5 春が待ち遠しい「夜ノ森 桜のトンネル」

富岡町の名所といえば、全長2.2kmの道沿いに420本が咲き誇る桜のトンネル。樹齢100年を超えたソメイヨシノも見られます。一帯は“特定復興再生拠点区域”に指定されており、2023年春の避難指示解除に向け、立入規制緩和や準備宿泊など少しずつ動き始めました。満開の桜の下で住民の笑顔を再び見られる日が待ち遠しいです。



春に満開となった桜のトンネルの様子
空気が自立したトンネル周辺だが、少しずつ人が戻り始めている



全国からも訪れる桜の名所

6 「震災復興記念碑」と静かに向き合う



後世に残された言葉を心に刻む

最後は麓山神社にある震災復興記念碑を訪れます。向かう道中には震災以前田んぼだったという場所に太陽光パネルが広がる野原がありました。その背景には稲作を諦めざるを得なかった米農家の苦渋の決断があったのだとか。記念碑を見つめながら、“現在進行形”である復興の道のりを改めて認識させられました。

毎年8月15日に開催される「麓山の火祭り」でも有名な麓山神社。石碑にはこの町で起きたこと、そして復興の過程が記されている

1 まずは「ふたばいんふお」で情報収集

施設内にびっしりと埋めつくされたパネル、資料の数々。双葉8町村(葛尾村、浪江町、双葉町、大熊町、川内村、富岡町、楡葉町、広野町)をはじめ、消防、警察、東京電力など、関係各所の情報が住民目線で分かりやすく取りまとめられています。町の歴史や特産物なども紹介され、震災だけではない町の姿を知ることができました。



ふたばいんふおにはカフェも隣接。ランチや休憩に立ち寄ってみよう(土・日曜、祝日休)

住民目線で伝える双葉のリアル

関連書籍やリーフレットのほか、双葉郡の物産、グッズも販売されている

津波によりひしゃげたガードレール。浜街道が整備される以前は、向こうに海が見えていた



時が止まっていたこの町の今

毛萱地区で奇跡的に残った毛萱観音。手前にモニタリングポスト(放射線監視装置)が設置されている

2 車窓から「あの日の痕跡」を巡る

東京電力福島第一原発事故により半径20km圏内にある富岡町は、平成23年(2011)4月22日に町全域が警戒区域に指定され、全町避難を余儀なくされました。帰還困難区域を除く避難解除指示が出されたのは6年後の平成29年(2017)。沿岸では防災緑地の整備が進められている一方で、いまだに地震、津波の痕跡が残されています。

3 「富岡漁港」から東京電力福島第二原発を望む

富岡町と楡葉町にまたがる東京電力福島第二原発。2064年度の完了を目指し現在廃炉作業が進められている



原発とともに歩んできた町なんです

津波被害から復旧し2019年に再開された富岡漁港。南の方角には過酷事故を免れた東京電力福島第二原発が望めます。2022年12月に公表された試験操業海域におけるモニタリング検査では、すべての検体で放射性セシウムは不検出。震災前の水揚げ量まで回復するにはまだ時間がかかりますが、かつての活気が戻りつつあります。



津波により折れてしまった「ロウソク岩」。現在は根元だけが残っている



2019年にはかつての漁船が戻り盛大に「帰港式」が開かれた。写真は海釣りでも人気の遊漁船「長栄丸」

震災を学ぶたび

福島・富岡

ふたばいんふお

DATA→P99

ふたばいんふお

東京電力福島第一原発事故による帰還困難区域が町面積の約1割を占める富岡町(2023年1月現在)。民間団体によって運営される「ふたばいんふお」は、双葉8町村の現状を共有し伝えるための場となっています。住民目線の言葉に耳を傾けましょう。

今回参加したのは

スタディーツアー

知りたいこと、行きたい場所など来訪者の希望に合わせてオーダーメイドでプランを作成。今回は1時間30分ほどかけて富岡町内を車で回り、町の被災状況や復興の様子を案内していただきました。

料金 無料 ※要予約・相談

案内人 ひらまつとむ 平山 勉さん

「ふたばいんふお」を設立した経緯を教えてください。

平成27年(2015)に立ち上げた「双葉郡未来会議」がはじまりです。双葉8町村の情報や課題を共有し合うなかで、常設展示をする場が必要だと感じ、自らの出身地である富岡町に設立しました。住民同士がつながる場だけでなく、この地域を知りたいという方にも自由に利用していただけます。

民間組織ならではの違いはありますか?

語り部は基本的に来訪者の希望に合わせて、オーダーメイドで組みます。単純に語り部の枠に収まらず、住民目線で、原発とともに歩んできた地域の歴史や思いをありのままにお話します。県や町の情報以外にもいろんな側面から伝えることが大事だと思っています。

来訪者に感じ取ってほしいことは何ですか?

避難指示が解除されたばかりでまだポロポロ(2017)から、少しずつ風景が変わってきています。どんな経過をたどって今があるのか…。直接話を聞きながら、この地域のことを知っていただきたいです。